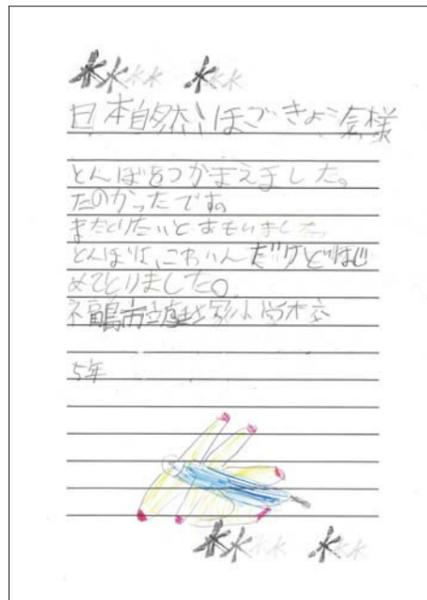
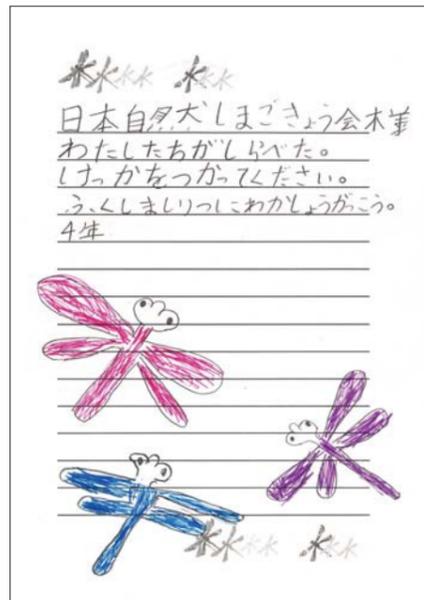




参加者からの感想



赤とんぼの絵を、福島市立庭塚小学校のみなさんからお寄せいただきました。



絵：高橋 旺佑さん(福島県)

赤とんぼはどこにでも、そしてたくさんいるもの、と思ひ込みがありましたので、今回の調査で、一生懸命に探さない見つからないことに驚きました。

山根外茂次さん(埼玉県)

とんぼの識別のポイントを知ることができ、赤とんぼをひとつくりに見ていましたが、ちょっと違う見方ができるようになったようです。

上田貴子さん(山口県)

赤とんぼに種類があって驚いた。手をかざすととまってきてびっくり。うれしかった。

山口友樹さん(京都府)

水田で産卵してもヤゴが無事に羽化できる環境がなくなりつつあるのは、とても残念です。

大木悦子さん(神奈川県)

ぼくは虫がだいすきなので、もっともっととんぼのことをしりたいと思いました。

今泉登真さん(東京都)



写真コンテスト「赤とんぼがいる風景」入賞作品発表

★グランプリ賞

堤 信一郎さん(福岡県)

生態的にもおもしろいで賞

中村征夫さん(新潟県)

赤とんぼのいる風景賞

葉山雅泰さん(千葉県)

ナイスショット賞

横田 靖さん(大阪府)

楽しくしらべました賞

太田隆司さん(東京都)

※各作品とコメントなどは日本自然保護協会の自然しらべ2014のサイトにも掲載しています。ご覧ください。

グランプリ賞 マユタテアカネ 堤 信一郎さん(熊本県上益城郡山都町通潤橋・2014年9月28日)

NACS-J自然しらべとは

子どもから大人まで、身近な自然に出かけて全国同じテーマでしらべる、市民参加型の環境教育プログラムです。「みんなで、みれば、みえてくる」を合い言葉に、日本自然保護協会が1995年から毎年続け、身近な自然の状況を知る「自然の定期健康診断」です。集まった情報の結果を、学術協力者の方とまとめ、日本の自然を守る活動に活用します。多くの方に自然を観察してもらうきっかけとなり、自然への愛着と関心を高め、日本の生物多様性を守ることに繋がってほしいと考えています。今回で、のべ参加者数は約72,700人になりました。



赤とんぼさがし!

結果レポート編

●主催：日本自然保護協会(NACS-J) ●共催：読売新聞東京本社 ●協賛：JR西日本、サニクリーン、カラータ ●誌面協賛：日経BP社、交通新聞社、日経サイエンス社、KKベストセラーズ ●協力：日本トンボ学会、モンベル、ニコン、学研グループ、富士通、実業之日本社、文一総合出版、E-ne!~good for you~、NEC presents THE FLINTSTONE ●後援：環境省、文部科学省 ●学術協力：日本トンボ学会(松本和雄前会長) ●参加者数：のべ2,656人 ●調査地点：のべ1,421カ所 ●実施期間：2014年7月1日~10月31日

Design InterStudio inc. 修正版(2015年11月11日)

あなたも自然を守る仲間になりませんか 会員募集中!

〒104-0033 東京都中央区新川1-16-10 ミトヨビル2F TEL:03-3553-4103 FAX:03-3553-0139 shirabe2015@nacsj.or.jp http://www.nacsj.or.jp



自然のちからで、明日をひらく。

日本自然保護協会 THE NATURE CONSERVATION SOCIETY OF JAPAN



自然しらべ2014

赤とんぼさがし!

結果レポート

トンボは水辺の自然環境の様子を知ることができる生きものです。「自然しらべ2014」(2014年7~10月)では、各地で数を減らす「赤とんぼ」を、のべ2,656名の方がさがしてくださいました。全国各地から、のべ1,421ヶ所から1,684枚のトンボの記録写真が寄せられ、種の同定と集計を行いました。このレポートでは、田んぼで観察された記録を中心に結果を報告します。

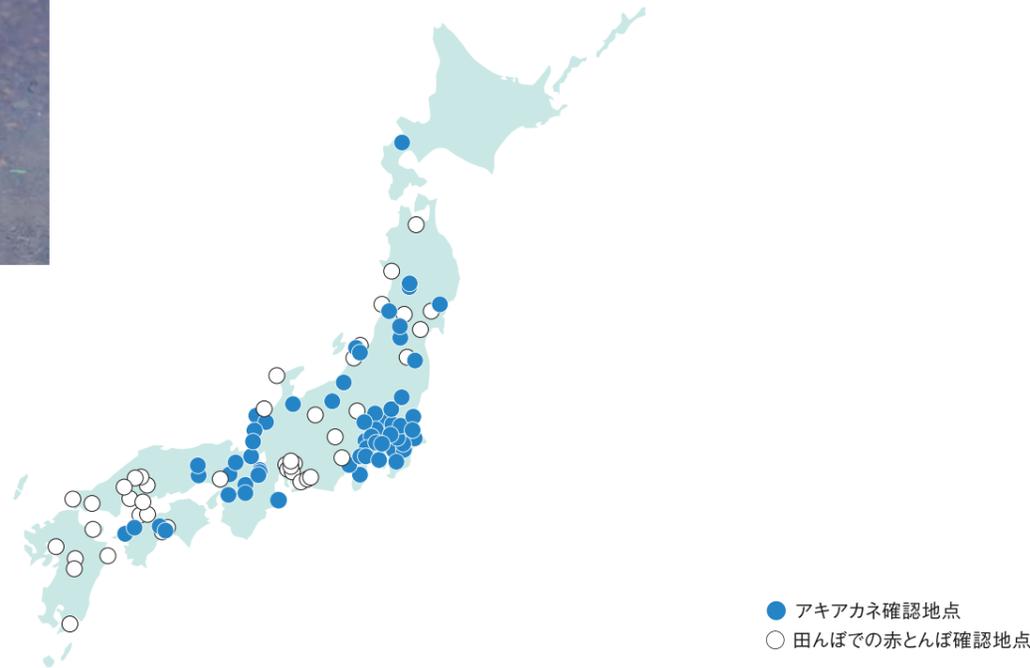
主催 公益財団法人日本自然保護協会 共催 読売新聞東京本社 協賛 JR西日本 Sanikleen COLORATA
誌面協賛 日経サイエンス 一個人 ecomom 特女歩の達人 旅の手帖
協力 日本トンボ学会 mont-bell Nikon GARYY このは 学研グループ FUJITSU
E-ne!~good for you~ (FMヨコハマ) NEC presents THE FLINTSTONE (bayfm) 後援 環境省 文部科学省

“赤とんぼさがし!”で田んぼから多く報告された種ベスト3

アキアカネ *Sympetrum frequens* (Selys, 1883)



伊藤信男さん
(東京都世田谷区・2014年10月6日)



国内では、北海道・本州・四国・九州、海外では朝鮮半島や中国、ロシアにも分布します。九州では大分県以外では少なく、南限の鹿児島県では最新の県版レッドデータリストで、ベッコウトンボなどとともに絶滅危惧I類となっています。また、富山県では急激な減少で情報不足種となっています。今回は、全国101地点からのご報告をいただきました。本種は日本で一番よく知られているトンボの一つですが、近年は全国各地で激減していることが指摘されており、今回の調査でも、アカネ属が報告された県のうち、調査地点が6箇所以上あるにもかかわらず、本種がまったく記録されなかった県が2つありました。愛知県と広島県です。

平地から山地の水田や池沼、湿地などに生息する種で、他のアカネとは頭部や胸部の斑紋、脚の色などで区別できます。平地で羽化した個体は山地に長距離移動して夏季を過ごし、秋になると山

を降り繁殖行動を行うことが知られており、その移動の際、しばしば集団移動することが確認されています。

しかし、北海道では山地への長距離移動をせず、発生地近くの山で過ごしたり、移動しないで平地に留まる個体群もあります。午前中に交尾を終えたオスとメスがつながったまま飛んで行き、稲刈りを終えた水田の水たまりなど産卵に適した場所にオスが誘導し、そのまま泥や水面をメスの腹の先で連続的に打って産卵します。たまにオスと離れたメスが単独で産卵することもあります。また、午後の時間帯に同じ方向にオスとメスが繋がらない形で集団移動する場面も観察されています。

ナツアカネ *Sympetrum darwinianum* (Selys, 1883)



吉居瑞穂さん
(三重県伊勢市・2014年10月14日)

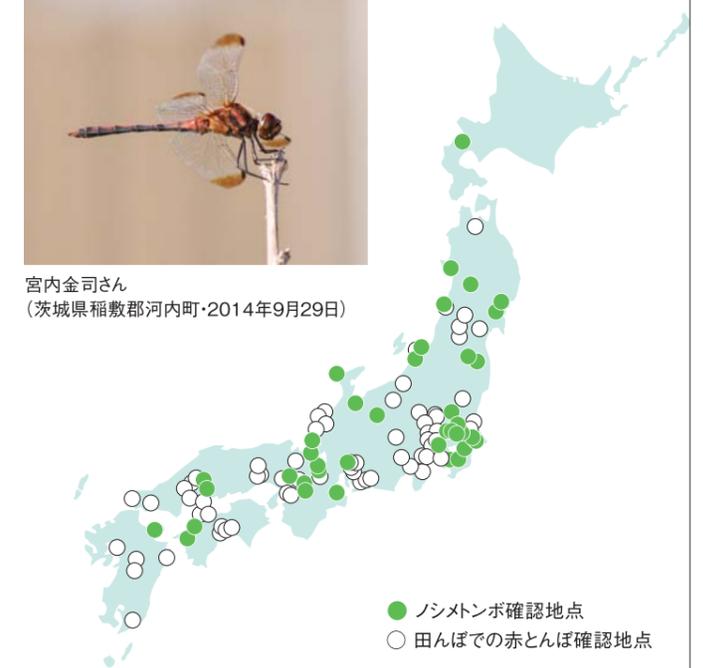


国内では、北海道・本州・四国・九州に分布し、海外では朝鮮半島や中国にも分布します。県版レッドデータリストでは、北海道版で準絶滅危惧種、神奈川県版で要注意種、富山県版で情報不足種となっています。今回は、全国60地点でのご報告をいただきました。平地から山地の水田や池沼、湿地などに生息する種で、他のアカネとは頭部や胸部の斑紋などで区別できます。オスは成熟すると顔面まで赤化します。「ナツアカネ」という名前ですが、交尾や産卵は秋に行われます。未成熟な個体は、羽化地を離れ、夏季は林の中の風通しの良い日陰の枝などに静止していることが多いことが分っています。交尾を終えたオスとメスは、つながったまま水田や湿地を訪れ、緩やかに飛んで空中から打ち下ろしながら卵をばらまきますが、オスと離れたメスが単独で産卵することもあります。

ノシメトンボ *Sympetrum infuscatum* (Selys, 1883)



宮内金司さん
(茨城県稲敷郡河内町・2014年9月29日)



国内では、北海道・本州・四国・九州に分布し、海外では朝鮮半島や中国、ロシアにも分布します。今回は、全国51地点でのご報告をいただきました。富山県では1998年を境にアキアカネとともに急激に減少しており、富山県版のレッドデータリストで情報不足種となっています。

平地から山地の水田や池沼、湿地などに生息する種で、他のアカネとは羽の先端の褐色斑や頭部、胸部の斑紋などで区別できます。東北地方の個体では、本種のわかりやすい特徴の一つである羽の先端の褐色斑が消失する傾向がみられます。交尾は主に午前中に行われ、交尾を終えたオスとメスは、つながったまま植物の繁茂する湿地上で緩やかに飛びながら空中から卵をばらまくことが多いですが、オスと離れたメスが単独で産卵することもあります。

解説: 松木和雄

トピック 全国各地でしらべてくださった赤とんぼの写真の中に、こんな珍しいものもありました

●異種間連結

トンボの連結は、オスが尾部付属器でメスの頭部や前胸部をはさんで行われますが、ときどき異種間で連結あるいは交尾にまでいたることがあります。アカネ属でもノシメトンボのオスとミヤマアカネのメス、マユタテアカネのオスとミヤマアカネのメス、タイリクアキアカネのオスとアキアカネのメス、シオカラトンボのオスとノシメトンボのメスなど様々な異種間連結が報告されています。この写真もそのような異種間連結の事例ですが、ヒメリスアカネのオスとアキアカネのメスという組み合わせは初めての記録だと思われる。

佐々木誠治さん(北海道上川郡標茶町・2014年9月22日)



●ミヤマアカネ翅斑異常個体

前後翅に広い褐色の帯条斑を持つのが特徴的なアカネですが、その幅は地域によっては細い場合があり、北海道の数箇所と長野県白骨温泉付近のものなどでは特に狭いといわれています。しかし、この写真はそうした地域変異ではなく、後翅の帯条斑の一部が透明化しており、その部分から静止している葉も見えます。透明化した部分が左右非対称でサイズも異なるという羽の斑紋の異常な個体です。

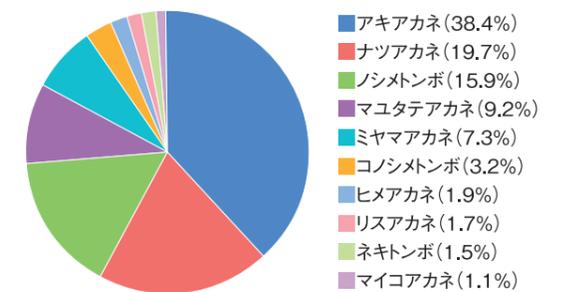
佐藤さくらさん(大分県豊後高田市・2014年8月30日)



赤とんぼのデータ集計

今回、全国583ヶ所(のべ1,421ヶ所)からトンボの写真1,684枚が寄せられ、そのすべてを日本トンボ学会の専門家の方*が種の同定を行いました。写真だけでは判別が難しく不明としたものもありますが、28種1亜種のトンボが観察されていました。環境写真と場所から田んぼかどうかを判断して、今回の対象であるアカネ属の集計を行いました。田んぼで見られた「赤とんぼ」466件のうち、多い順にアキアカネ38.4%(179件)、ナツアカネ19.7%(92件)、ノシメトンボ15.9%(74件)となりました。(NACS-J事務局)

*同定協力者: 日本トンボ学会(松木和雄、石川 一、喜多英人)



田んぼで見られた「赤とんぼ」(主な対象種10種)